

大学の質保証のための卒業生調査と企業調査

細 川 敏 幸

北海道大学名誉教授、元大学IRコンソーシアム理事

[キーワード] IR、卒業生調査、企業調査、学生調査、内部質保証

はじめに

平成30年度から始まった認証評価第3期では、内部質保証システムの有効性が問われることになった(大学基準協会 2016)。これは、世界的な大学評価の流れを追うものであり、今世紀はじめの米国ではすでに「多面的アセスメントプログラム」の開発が求められていた。Kinzie (2005)によれば、米国の公的な機関(大学)は学習における明示的な目標を確立し、そしてその達成度合いを体系的にevidenceとして収集することが要求される。しかし、1990年代の研究から「直接的な尺度を開発するには実質的に相当なコストがかかる」ことが明らかになった。つまり、科目内では知識や技術の成績評価はできるが、コンピテンシーで総称されるリーダーシップやコミュニケーション力などの能力の測定はコストの関係で実施できないのである。そこで、大学側としては学生のリクルート、入学してくる学生たちの特徴を掴むことから、学生の満足度を評価すること、大学での経験を評価すること、またはどれだけの学生を維持できているか、卒業の成果、同窓生の満足度を分析することでアセスメントを行うことになった。すなわち、多面的なアセスメントプログラムの開発においては、教室内での評価の他には「学生調査」と「卒業生調査」がメインとなるわけである。

日本の教学IR研究においては、文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互

評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国公立4大学IRネットワーク」(2009-2011)(代表：同志社大学、大阪府立大学、甲南大学、北海道大学)が組織的活動の嚆矢である。これを引き継ぎ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」(2012-2016)(代表：北海道大学、同志社大学、大阪府立大学、甲南大学、関西学院大学、お茶の水女子大学、琉球大学、玉川大学)が実施された。この組織をベースとして、2012年に大学IRコンソーシアム(以下コンソ)が設立された。当初コンソのアンケートはUCLAのHigher Education Research Institute (HERI)が実施していたCooperative Institutional Research Program (CIRP)を日本語化したものを採用し、対象は学部学生のみであった。しかし、米国の動向も踏まえ大学間連携事業内で卒業生調査のためのアンケート項目を検討して、8大学の一部で試験的に実施した。これがコンソに移譲され、2019年度から希望校を集めて実施するようになった。本稿では、まずその内容と2020年度の分析結果について報告する。

一方、著者の属していた北海道大学では、3年に1度の頻度で、毎年リクルートのために集まる企業や団体(地方自治体など)を対象に、卒業生の評価を求めるアンケートを実施している。次に2020年度実施のこのアンケート内容と結果について報告し、卒業生を受け入れた組織がどう感じているかを述べる。ただし、詳細に述べると個別大学の特性が明らかとなるので、可能な範囲で解説する。

I. 大学IRコンソーシアムの卒業生調査

1. アンケートの設問

アンケート用紙をそのまま引用すると著作権の問題が生じるので、ここでは概要を説明する(表1)。設問は15問であるが、個人の能力に関するQ4、Q14では多数の能力に関する評価が、職に関するQ9、Q11は多数の設問項目がある。表2に質問した能力の一覧表を示す。

表1 卒業生調査の概要

Q1	入学した試験の形態
Q2	本学の志望順位
Q3	授業科目・課外活動の熱心度
Q4	在学中の能力や知識の変化
Q5	大学時代の留学経験
Q6	本学の教育・研究の満足度
Q7	大学時代の生活全般の満足度
Q8	卒業後の本学とのつながり
Q9	初職の就業形態、業種、志望
Q10	転職・離職について
Q11	現在の就業形態、業種、規模、在職年数
Q12	キャリアパスの満足度
Q13	海外の勤務経験や外国語の使用
Q14	大学時代に身につける重要性
Q15	個人の属性(性別等)

表2 能力一覧

A	一般的な教養
B	分析力や問題解決能力
C	専門分野や学科の知識
D	批判的に考える能力
E	異文化の人々に関する知識
F	リーダーシップの能力
G	人間関係を構築する能力
H	他の人と協力して物事を遂行する能力
I	異文化の人々と協力する能力
J	地域社会が直面する問題を理解する能力
K	国民が直面する問題を理解する能力
L	文章表現の能力
M	外国語の運用能力
N	コミュニケーションの能力
O	プレゼンテーションの能力
P	数理的な能力
Q	コンピュータの操作能力
R	時間を効果的に利用する能力
S	グローバルな問題の理解
T	就職に向けた情報収集能力

2. 2020年度調査の概要

調査実施期間は2020年7月から2021年3月末までの任意の期間で、参加大学はコンソ加盟60大学のうちの18大学で、総参加者数は4,675名であった。記入されていた性別は男性2,369名(55.8%)、女性1,878名(44.2%)。対象者は原則として卒業後5、10、15年の卒業生であるが、5年後(2015卒)1,671名、10年後(2010卒)707名、15年後(2005卒)652名で、これ以外が無記名は1,645名であった(大学IRコンソーシアム2021、以下同様にこの資料から引用)。

入試の形態では一般入試が49.7%で多数を占め、2番目に多かったのは指定校推薦の17.1%であった。当該大学が第1志望であった卒業生は54.4%、第2志望は27.8%であった。在学中の授業科目・課外活動の熱心度を表3に示す。やや熱心と熱心を加えた比率を上位から順に並べると、Eゼミや実習(75.9%)、C実験以外の専門科目(75.8%)、F卒業論文・研究(67.4%)、Iアルバイト(60.7%)、A全学教育(60.3%)、D実験(57.1%)、G部・サークル活動(52.5%)、B外国語科目(47.1%)、H資格の取得(37.3%)、Jボランティア(16.8%)であった。多くの卒業生がゼミや実習、専門科目、卒業研究に熱心に取り組んだことがわかる。一方、資格の取得やボランティアはそれほど熱心ではなかった。

在学中の能力や知識の変化を表4に示す。卒業生の半分以上が在学中に増えたと考えている能力は比率の大きい方から順に、C専門分野や学科の知識、A一般的な教養、B分析力や問題解決能力、H他の人と協力して物事を遂行する能力、G人間関係を構築する能力、Nコミュニケーションの能力、Qコンピュータの操作能力、Oプレゼンテーションの能力、L文章表現の能力、R時間を効果的に利用する能力、T就職に向けた情報収集能力、D批判的に考える能力、E異文化の人々に関する知識であった。

大学時代の留学経験について表5に示す。19.2%の学生が留学を経験しているが、6ヶ月を超える留学を経験したのは2.6%であった。

満足度についての集計を表6に示す。「満足」と「とても満足」を加えた比率は、教育・研究については

表3 大学の授業科目・課外活動の熱心度

Q3. 大学の授業科目・課外活動の熱心度		0.取り組ま なかった	1.不熱心	2.やや 不熱心	3.どちらと もいえない	4.やや熱心	5.熱心	総合計
Q3A. 全学教育（一般教養科目）	件数	23	190	523	1,114	2,045	761	4,656
	%	0.5%	4.1%	11.2%	23.9%	43.9%	16.3%	100.0%
Q3B. 外国語科目	件数	71	357	841	1,188	1,467	725	4,649
	%	1.5%	7.7%	18.1%	25.6%	31.6%	15.6%	100.0%
Q3C. 専門科目（実験除く）	件数	54	97	259	713	2,032	1,488	4,643
	%	1.2%	2.1%	5.6%	15.4%	43.8%	32.0%	100.0%
Q3D. 専門科目（実験）	件数	973	73	227	713	1,398	1,241	4,625
	%	21.0%	1.6%	4.9%	15.4%	30.2%	26.8%	100.0%
Q3E. ゼミや実習	件数	101	111	263	642	1,634	1,893	4,644
	%	2.2%	2.4%	5.7%	13.8%	35.2%	40.8%	100.0%
Q3F. 卒業論文・卒業研究	件数	500	114	290	610	1,368	1,763	4,645
	%	10.8%	2.5%	6.2%	13.1%	29.5%	38.0%	100.0%
Q3G. 部・サークル活動	件数	1,131	198	364	512	905	1,531	4,641
	%	24.4%	4.3%	7.8%	11.0%	19.5%	33.0%	100.0%
Q3H. 資格の取得	件数	1,254	317	503	840	981	750	4,645
	%	27.0%	6.8%	10.8%	18.1%	21.1%	16.1%	100.0%
Q3I. アルバイト	件数	341	216	402	867	1,578	1,244	4,648
	%	7.3%	4.6%	8.6%	18.7%	34.0%	26.8%	100.0%
Q3J. ボランティア	件数	2,428	273	527	635	511	271	4,645
	%	52.3%	5.9%	11.3%	13.7%	11.0%	5.8%	100.0%

表4 在学中の能力や知識の変化

Q4. 在学中の能力や知識の変化		1.大きく 減った	2.減った	3.変化なし	4.増えた	5.大きく 増えた	総合計	4+5
Q4A. 一般的な教養	件数	19	75	757	3,079	726	4,656	3,805
	%	0.4%	1.6%	16.3%	66.1%	15.6%	100.0%	81.7%
Q4B. 分析力や問題解決能力	件数	16	93	872	2,723	950	4,654	3,673
	%	0.3%	2.0%	18.7%	58.5%	20.4%	100.0%	78.9%
Q4C. 専門分野や学科の知識	件数	14	56	382	2,342	1,861	4,655	4,203
	%	0.3%	1.2%	8.2%	50.3%	40.0%	100.0%	90.3%
Q4D. 批判的に考える能力	件数	29	208	1,618	2,161	642	4,658	2,803
	%	0.6%	4.5%	34.7%	46.4%	13.8%	100.0%	60.2%
Q4E. 異文化の人々に関する知識	件数	109	258	1,830	1,673	784	4,654	2,457
	%	2.3%	5.5%	39.3%	35.9%	16.8%	100.0%	52.8%
Q4F. リーダーシップの能力	件数	68	260	2,148	1,629	549	4,654	2,178
	%	1.5%	5.6%	46.2%	35.0%	11.8%	100.0%	46.8%
Q4G. 人間関係を構築する能力	件数	35	151	950	2,233	1,287	4,656	3,520
	%	0.8%	3.2%	20.4%	48.0%	27.6%	100.0%	75.6%
Q4H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	件数	28	101	926	2,344	1,258	4,657	3,602
	%	0.6%	2.2%	19.9%	50.3%	27.0%	100.0%	77.3%

Q4. 在学中の能力や知識の変化		1.大きく減った	2.減った	3.変化なし	4.増えた	5.大きく増えた	総合計	4+5
Q4I. 異文化の人々と協力する能力	件数	163	269	2,449	1,303	470	4,654	1,773
	%	3.5%	5.8%	52.6%	28.0%	10.1%	100.0%	38.1%
Q4J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	件数	94	275	2,504	1,459	321	4,653	1,780
	%	2.0%	5.9%	53.8%	31.4%	6.9%	100.0%	38.3%
Q4K. 国民が直面する問題を理解する能力	件数	99	272	2,494	1,508	277	4,650	1,785
	%	2.1%	5.8%	53.6%	32.4%	6.0%	100.0%	38.4%
Q4L. 文章表現の能力	件数	53	205	1,342	2,315	738	4,653	3,053
	%	1.1%	4.4%	28.8%	49.8%	15.9%	100.0%	65.6%
Q4M. 外国語の運用能力	件数	194	485	2,237	1,348	387	4,651	1,735
	%	4.2%	10.4%	48.1%	29.0%	8.3%	100.0%	37.3%
Q4N. コミュニケーションの能力	件数	28	136	997	2,506	988	4,655	3,494
	%	0.6%	2.9%	21.4%	53.8%	21.2%	100.0%	75.1%
Q4O. プレゼンテーションの能力	件数	31	146	1,310	2,290	878	4,655	3,168
	%	0.7%	3.1%	28.1%	49.2%	18.9%	100.0%	68.1%
Q4P. 数理的な能力	件数	80	385	2,088	1,602	495	4,650	2,097
	%	1.7%	8.3%	44.9%	34.5%	10.6%	100.0%	45.1%
Q4Q. コンピュータの操作能力	件数	24	125	1,159	2,302	1,046	4,656	3,348
	%	0.5%	2.7%	24.9%	49.4%	22.5%	100.0%	71.9%
Q4R. 時間を効果的に利用する能力	件数	43	196	1,405	2,267	737	4,648	3,004
	%	0.9%	4.2%	30.2%	48.8%	15.9%	100.0%	64.6%
Q4S. グローバルな問題の理解	件数	111	310	2,408	1,459	355	4,643	1,814
	%	2.4%	6.7%	51.9%	31.4%	7.6%	100.0%	39.1%
Q4T. 就職に向けた情報収集能力	件数	52	169	1,451	2,202	778	4,652	2,980
	%	1.1%	3.6%	31.2%	47.3%	16.7%	100.0%	64.1%

表5 在学中の留学経験

Q5. 大学時代の留学経験	件数	%
1. 渡航したことはない	3,761	80.8%
2. 10日未満	150	3.2%
3. 10日以上1ヶ月未満	397	8.5%
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満	226	4.9%
5. 6ヶ月以上	119	2.6%
総合計	4,653	100.0%

74.7%、生活全般については84.2%と高い満足度が示された。

初職の勤務先の業種を表7に示す。製造業が最も多く、以下医療・福祉、卸売業・小売業、金融業・保険業、情報通信業と続く。なお、初職の就業形態は正社

員が88.8%、有期雇用（フルタイム）が7.9%、有期雇用（短時間勤務）が1.9%であった。初職が第1志望であった比率は31.0%、ほぼ志望どおりであった比率は40.3%であった。

初職を選択した時に、何を重要視したかを表8に示す。「やや重視した」と「非常に重視した」を加算すると、どの項目も40%を超える。低い方からあげると、周囲の薦め・紹介、専門分野とのつながり、知名度の順である。専門分野とのつながりが重要視されないことは、日本の高等教育の課題である。

転職の経験について表9に示す。39.5%が1度以上の転職を経験している。初職が希望通りでなかった割合がおおよそ30%だったので、それ以上の卒業生が転職していることになる。表10は転職の理由であるが、

表6 教育研究ならびに生活全般の満足度

		1.とても 不満	2.不満	3.どちらと も言えない	4.満足	5.とても 満足	総合計	4+5
Q6. 本学の教育・研究の満足度	件数	38	152	987	2,573	909	4,659	3,482
	%	0.8%	3.3%	21.2%	55.2%	19.5%	100.0%	74.7%
Q7. 大学時代の生活全般の満足度	件数	27	123	587	2,395	1,529	4,661	3,924
	%	0.6%	2.6%	12.6%	51.4%	32.8%	100.0%	84.2%

表7 初職の勤務先の業種別比率

Q9-2. 初職の勤務先の業種	件数	%
1. 農林漁業	37	0.8%
2. 鉱業	2	0.0%
3. 建設業	279	6.2%
4. 製造業	727	16.0%
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	79	1.7%
6. 情報通信業	418	9.2%
7. 運輸業、郵便業	147	3.2%
8. 卸売業、小売業	446	9.8%
9. 金融業、保険業	425	9.4%
10. 不動産業、物品賃貸業	84	1.9%
11. 学術研究、専門・技術サービス業	263	5.8%
12. 宿泊業、飲食店	64	1.4%
13. 生活関連サービス業、娯楽業	176	3.9%
14. 教育、学習支援業	397	8.8%
15. 医療、福祉	449	9.9%
16. 公務（他に分類されないもの）	320	7.1%
17. その他	218	4.8%
総合計	4,531	100.0%

比率の多い順に、ステップアップを図るため、労働時間への不満、職場の人間関係であった。

現職の比率を表11に示す。表11には初職の比率も併記し、比率の増減がわかるようにした。現職で1%以上増えた業種は、6. 情報通信、11. 学術研究、14. 教育・学習支援、15. 医療・福祉、16. 公務であった。

現在の職種と職階を表12と表13に示す。職種は、事務・企画職、技術・研究職、専門職、営業職の順に多い。職階では、1～4の職階が総計で25%に及び、卒業後15年以内に4分の1の卒業生が経営者、役員、管理職、監督職についたことがわかる。

表14に現在の年収を示す。最頻値は400～600万円の範囲にあるが、次に多い区分は200～400万円である。このようなキャリアパスに対して、満足あるいはとても満足と答えた卒業生は60.3%であった。

表15は外国語の使用頻度を分析するために、さまざまな経験や勤務状態をたずねた設問である。通常業務で外国語を使わない卒業生は71.4%であり、日本の企業における外国語の利用度を推測することができる。

表16には、卒業生が学生時代に何を身につけるべきと答えたかを示す。どちらかといえば重要と重要を加えた値が90%を超えるのは、上から順に「B. 分析・問題解決能力」、「G. 人間関係を構築する能力」、「H. 他の人と協力して物事を遂行する能力」、「L. 文章表現の能力」、「N. コミュニケーションの能力」、「R. 時間を効果的に利用する能力」であった。「M. 外国語の運用能力」が59.9%と、低い評価である。通常業務で使わない（表15）ためであろう。その比率が、「E. 異文化の人々に関する知識」や「I. 異文化の人々と協力する能力」とほぼ同じ値であることも興味深い。

最後に、生涯学習に関連して、卒業生の学習時間を表17に示す。まったく勉強していない卒業生が27.5%である一方で、1時間以上勉強している卒業生が半数に近いことは、心強い。勉学の習慣を維持している卒業生が多数存在していることになり、社会人教育の需要があることを示唆している。

Ⅱ. 北海道大学の企業調査

1. アンケートの設問

表18に設問内容を示す。このうち、能力に関する設問Q5、Q7の能力の詳細については表2から「就職に向けた情報収集能力」を除き、代わりに「倫理面に配

表8 初職を選択したときに何を重要視したか

Q9-4. 就職先を選択した重要視度	1. 全く重視しなかった	2. あまり重視しなかった	3. やや重視した	4. 非常に重視した	総合計	3 + 4
Q9_4A. 知名度	640 14.9%	1,325 30.9%	1,658 38.7%	660 15.4%	4,283 100.0%	2,318 54.1%
Q9_4B. 安定性	228 5.3%	619 14.5%	1,907 44.6%	1,526 35.7%	4,280 100.0%	3,433 80.2%
Q9_4C. 職種	141 3.3%	547 12.7%	1,649 38.4%	1,956 45.6%	4,293 100.0%	3,605 84.0%
Q9_4D. 業種	175 4.1%	692 16.2%	1,689 39.4%	1,726 40.3%	4,282 100.0%	3,415 79.8%
Q9_4E. 収入	226 6.1%	1,142 30.7%	1,787 48.0%	567 15.2%	3,722 100.0%	2,354 63.2%
Q9_4F. 勤務地	299 7.0%	805 18.8%	1,569 36.6%	1,617 37.7%	4,290 100.0%	3,186 74.3%
Q9_4G. 福利厚生 の充実	367 8.6%	1,218 28.4%	1,812 42.3%	886 20.7%	4,283 100.0%	2,698 63.0%
Q9_4H. 周囲の薦め・紹介	1,003 23.4%	1,490 34.8%	1,313 30.6%	478 11.2%	4,284 100.0%	1,791 41.8%
Q9_4I. 将来性	338 7.9%	1,180 27.6%	2,031 47.5%	727 17.0%	4,276 100.0%	2,758 64.5%
Q9_4J. 専門分野とのつながり	719 16.8%	1,251 29.3%	1,346 31.5%	957 22.4%	4,273 100.0%	2,303 53.9%

表9 転職の経験

Q10-1. 転職・離職の経験	件数	%
1. 1度だけある	1,136	25.1%
2. 2回以上ある	650	14.4%
3. ない	2,733	60.5%
総合計	4,519	100.0%

慮して行動する能力」を採用している。この設問は、コンソの1、3年生調査にはないが、本学ではその重要性に鑑み、1、3年生調査に組み込んでいる。また、Q7では「自分で課題を見つけ、自分で解決していく能力」をさらに加えている。

2. 2020年度調査の概要

本調査は、北海道大学の教育効果を検証するために、北海道大学が主催した「企業研究セミナー」に参加した企業と、「公務員の仕事研究合同セミナー」に参加した団体を対象に実施したアンケート調査の結果である。これらのセミナーは企業あるいは団体と学生が参

表10 転職の理由

Q10-2. 初職から転職、離職した最も大きな理由	件数	%
1. ステップアップを図るため	465	26.7%
2. キャリアを買われたから	41	2.4%
3. 収入への不満があったから	122	7.0%
4. より大学で学んだ専門に近いから	44	2.5%
5. 労働時間への不満があったから	205	11.8%
6. 職場の人間関係に不満があったから	179	10.3%
7. 能力が不足していたから	47	2.7%
8. 自分の関心に合わなかったから	164	9.4%
9. 結婚	134	7.7%
10. 出産・育児のため	52	3.0%
11. 介護のため	7	0.4%
12. 有期雇用の契約満了	71	4.1%
13. その他	213	12.2%
総合計	1,744	100.0%

加して、それぞれの仕事の内容を紹介する対面の事業であるが、令和2年度はコロナ禍でオンラインで実施された。公務員の仕事研究合同セミナーは、令和2年

表11 現在の業種と初職の業種の比率(網掛けは1%以上の増加を示す)

Q11-2. 現在の勤務先の業種	件数	%	初職の%
1. 農林漁業	17	0.9%	0.8%
2. 鉱業	0	0.0%	0.0%
3. 建設業	114	5.7%	6.2%
4. 製造業	259	13.0%	16.0%
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	32	1.6%	1.7%
6. 情報通信業	218	11.0%	9.2%
7. 運輸業、郵便業	35	1.8%	3.2%
8. 卸売業、小売業	161	8.1%	9.8%
9. 金融業、保険業	62	3.1%	9.4%
10. 不動産業、物品賃貸業	32	1.6%	1.9%
11. 学術研究、専門・技術サービス業	160	8.0%	5.8%
12. 宿泊業、飲食店	20	1.0%	1.4%
13. 生活関連サービス業、娯楽業	90	4.5%	3.9%
14. 教育、学習支援業	214	10.8%	8.8%
15. 医療、福祉	274	13.8%	9.9%
16. 公務（他に分類されないもの）	166	8.3%	7.1%
17. その他	135	6.8%	4.8%
総合計	1,989	100.0%	100.0%

表12 現在の職種

Q11-5. 現在の勤務先での職種	件数	%
1. 事務・企画職	1,083	25.8%
2. 営業職	595	14.2%
3. 販売・サービス職	253	6.0%
4. 専門職（会計士、税理士、弁護士、司法書士、医師、教員など）	739	17.6%
5. 技術・研究職	890	21.2%
6. ITエンジニア職	319	7.6%
7. 経営者・役員	72	1.7%
8. その他	249	5.9%
総合計	4,200	100.0%

表14 現在の年収

Q11-7. 現在の年収（総支給額）	件数	%
1. 200万円未満	214	5.1%
2. 200～400万円未満	1,410	33.7%
3. 400～600万円未満	1,559	37.3%
4. 600～800万円未満	610	14.6%
5. 800～1000万円未満	219	5.2%
6. 1000～1200万円未満	90	2.2%
7. 1200～1400万円未満	25	0.6%
8. 1400万円以上	55	1.3%
総合計	4,182	100.0%

表13 現在の職階

Q11-6. 現在の職階	件数	%
1. 経営者・役員	107	2.5%
2. 管理職（部長級）	35	0.8%
3. 管理職（課長級）	150	3.5%
4. 監督職（係長・主任級）	783	18.2%
5. 一般職（役職なし）	3,135	72.7%
6. その他自営など	103	2.4%
総合計	4,313	100.0%

12月に1、3、8、10日の4日間オンライン開催され、参加団体数37、参加学生数のべ473名であった。企業セミナーは令和3年3月1日から11日までオンライン開催され、参加企業数557社、参加学生数のべ5225名であった。

参加企業アンケートは、令和2年12月25日から令和3年1月29日まで、参加団体アンケートは令和2年11月26日から令和3年3月31日までを調査期間とし

表15 海外での勤務経験や業務における外国語の使用状況

Q13. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用（複数可）	0. 該当しない	1. 該当する	総合計
Q13_1. 海外での勤務経験がある	4,272 96.7%	147 3.3%	4,419 100.0%
Q13_2. 海外出張の経験がある	3,849 87.1%	570 12.9%	4,419 100.0%
Q13_3. 外国語を使用して、会話や議論をする必要がある	3,905 88.3%	517 11.7%	4,422 100.0%
Q13_4. 外国語を使用して、メールや文書のやりとりをする必要がある	3,675 83.1%	746 16.9%	4,421 100.0%
Q13_5. 社内公用語が外国語である	4,367 98.8%	52 1.2%	4,419 100.0%
Q13_6. どれもあてはまらない	1,278 28.6%	3,189 71.4%	4,467 100.0%

た。調査は参加企業・団体に対して電子メールにより調査協力の依頼および回答サイトを案内し、Webアンケート方式により実施した。なお、この方式がアクセス制限等で利用できない場合は、別途紙によるアンケートを実施した。回収率は企業が60.1%（335/557）、団体が56.8%（21/37）であった。企業・団体ともに所在地は東京都、北海道、その他の順であった。従業員301人以上の大企業が81.5%をしめ、中小企業の割合は18.2%であった。企業の業種では、製造業（38.2%）、情報通信業（20.6%）だけで6割になる。団体の業務では行政が66.7%で最も多かった。一企業における本学の卒業生の所属人数は「10人未満」（41.2%）が最も多かった。「10～50人」が37.6%、「50人超」が13.7%であった。従業員数「1,001～5,000人」の企業で、北海道

表16 大学時代に何を身につけることが重要か

Q14. 大学生時代に身につける重要性		1. 重要ではない	2. どちらかといえば重要ではない	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要	5. 重要	総合計	3 + 4
Q14A. 一般的な教養	件数	49	130	356	1,849	2,251	4,635	4,100
	%	1.1%	2.8%	7.7%	39.9%	48.6%	100.0%	88.5%
Q14B. 分析力や問題解決能力	件数	24	52	207	1,474	2,877	4,634	4,351
	%	0.5%	1.1%	4.5%	31.8%	62.1%	100.0%	93.9%
Q14C. 専門分野や学科の知識	件数	136	400	921	1,596	1,579	4,632	3,175
	%	2.9%	8.6%	19.9%	34.5%	34.1%	100.0%	68.5%
Q14D. 批判的に考える能力	件数	117	332	1,043	1,760	1,377	4,629	3,137
	%	2.5%	7.2%	22.5%	38.0%	29.7%	100.0%	67.8%
Q14E. 異文化の人々に関する知識	件数	203	420	1,188	1,791	1,031	4,633	2,822
	%	4.4%	9.1%	25.6%	38.7%	22.3%	100.0%	60.9%
Q14F. リーダーシップの能力	件数	72	172	747	1,884	1,756	4,631	3,640
	%	1.6%	3.7%	16.1%	40.7%	37.9%	100.0%	78.6%
Q14G. 人間関係を構築する能力	件数	22	30	176	1,078	3,324	4,630	4,402
	%	0.5%	0.6%	3.8%	23.3%	71.8%	100.0%	95.1%
Q14H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	件数	32	45	187	1,189	3,180	4,633	4,369
	%	0.7%	1.0%	4.0%	25.7%	68.6%	100.0%	94.3%
Q14I. 異文化の人々と協力する能力	件数	212	378	1,291	1,759	992	4,632	2,751
	%	4.6%	8.2%	27.9%	38.0%	21.4%	100.0%	59.4%
Q14J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	件数	174	369	1,260	1,770	1,060	4,633	2,830
	%	3.8%	8.0%	27.2%	38.2%	22.9%	100.0%	61.1%
Q14K. 国民が直面する問題を理解する能力	件数	169	341	1,249	1,859	1,012	4,630	2,871
	%	3.7%	7.4%	27.0%	40.2%	21.9%	100.0%	62.0%

Q14. 大学生時代に身につける重要性		1. 重要ではない	2. どちらかといえば重要ではない	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要	5. 重要	総合計	3 + 4
Q14L. 文章表現の能力	件数	34	93	298	1,593	2,614	4,632	4,207
	%	0.7%	2.0%	6.4%	34.4%	56.4%	100.0%	90.8%
Q14M. 外国語の運用能力	件数	222	414	1,221	1,605	1,172	4,634	2,777
	%	4.8%	8.9%	26.3%	34.6%	25.3%	100.0%	59.9%
Q14N. コミュニケーションの能力	件数	14	27	138	1,016	3,438	4,633	4,454
	%	0.3%	0.6%	3.0%	21.9%	74.2%	100.0%	96.1%
Q14O. プレゼンテーションの能力	件数	41	124	462	1,689	2,313	4,629	4,002
	%	0.9%	2.7%	10.0%	36.5%	50.0%	100.0%	86.5%
Q14P. 数理的な能力	件数	75	256	944	2,029	1,326	4,630	3,355
	%	1.6%	5.5%	20.4%	43.8%	28.6%	100.0%	72.5%
Q14Q. コンピュータの操作能力	件数	31	104	336	1,669	2,488	4,628	4,157
	%	0.7%	2.2%	7.3%	36.1%	53.8%	100.0%	89.8%
Q14R. 時間を効果的に利用する能力	件数	34	44	235	1,266	3,052	4,631	4,318
	%	0.7%	1.0%	5.1%	27.3%	65.9%	100.0%	93.2%
Q14S. グローバルな問題の理解	件数	197	364	1,312	1,828	928	4,629	2,756
	%	4.3%	7.9%	28.3%	39.5%	20.0%	100.0%	59.5%

表17 学習時間

F5. 勤務時間以外の学習時間 (一週間あたり)	件数	%
1. 全然ない	1,269	27.5%
2. 1時間未満	1,069	23.2%
3. 1～2時間	1,084	23.5%
4. 3～5時間	654	14.2%
5. 6～10時間	295	6.4%
6. 11～15時間	109	2.4%
7. 16～20時間	58	1.3%
8. 21時間以上	77	1.7%
総合計	4,615	100.0%

表18 設問内容

Q1 本社、団体所在地
Q2 従業員、職員数
Q3 業務内容
Q4 本学の卒業生、修了生数
Q5 本学の卒業生、修了生数の能力評価
Q6 文系卒業生・理系卒業生間の能力差
Q7 在学中に身につけて欲しかった知識・能力

表19 能力評価

A 一般的な教養
B 分析力や問題解決能力
C 専門分野や学科の知識
P 数理的な能力

大学の卒業生が「10～50人」に該当する企業は51社であった。

卒業生の能力について、「身につけている」、「やや身につけている」、「あまり身につけていない」、「身につけていない」、から選ぶことで回答を求めた。企業で50%以上が「身につけている」と回答した項目は表19のようになった。団体の場合は50%を超える項目はなかった。

表20と21に在学中身につけておいて欲しかった能力のうち、全回答数に占める割合が5%以上の企業あるいは団体があげている項目を示す。詳しいデータは紹介できないが、能力評価で低い値を示す項目が「在学中身につけておいて欲しかった能力」に直接対応しているわけではない。すなわち、卒業生の現在の能力と身につけておいて欲しかった能力には強い関係があ

表20 在学中身につけておいて欲しかった能力
(企業5%以上)

- A 一般的な教養
- B 分析力や問題解決能力
- C 専門分野や学科の知識
- D 批判的に考える能力
- F リーダーシップの能力
- G 人間関係を構築する能力
- H 他の人と協力して物事を遂行する能力
- N コミュニケーションの能力
- O プレゼンテーションの能力
- Q コンピュータの操作能力
- U 自分で課題を見つけ、自分で解決していく能力

表21 在学中身につけておいて欲しかった能力
(団体5%以上)

- B 分析力や問題解決能力
- D 批判的に考える能力
- F リーダーシップの能力
- G 人間関係を構築する能力
- U 自分で課題を見つけ、自分で解決していく能力

るわけではないことに留意する必要がある。この設問に対する回答は、一般に企業が期待している能力だと考えられる。この表に、コンソが注目している外国語運用能力や異文化理解、北海道大学が注目している倫理面に配慮して行動する能力は含まれていない。

Ⅲ. まとめ

今回の調査では、卒業生が学生時代に身につけておくべきと考える能力は、「分析・問題解決能力」、「人間関係を構築する力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「文章表現の能力」、「コミュニケーションの能力」、「時間を効果的に利用する能力」であった。およそ4割が転職しており、転職により比率が増えた職種は、「情報通信」、「学術研究」、「教育・学習支援」、「医療・福祉」、「公務」であり、これらの分野への移行が増えていることが示唆された。

企業や団体が在学中身につけて欲しかった能力は、「分析力や問題解決能力」、「批判的に考える能力」、「リーダーシップの能力」、「人間関係を構築する能

力」、「自分で課題を見つけ、自分で解決していく能力」であった。

ただし、ここで検討したコンソの質問項目は、およそ20年前のCIRPの質問項目である。本家のCIRP自体の質問項目は社会の求める能力に対応して毎年変化しており(細川他 2019)、本項で検討した能力だけではなくてきていることに留意すべきであろう。現代の企業は、ここで取り上げた以外の能力も望んでいる可能性がある(細川 2022)。

教学IRの発展により、以上のような分析ができる体制が日本でも整いつつある。次の段階では、分析結果をすぐさま大学の学部編成やカリキュラム改定に反映できる仕組みの導入が期待されている。それができると初めて教学IRが本来の意味で生かされることになるのである。

謝辞

本稿の執筆にあたり助言をしていただいた北海道大学総合IR室の江本理恵氏、水谷祐輔氏、秦敏宏氏に感謝いたします。

【参考文献】

- (1) 大学基準協会「第3期認証評価における大学評価の実施ガイド」, 2016
- (2) Kinzie, Jillian L.「米国の学生調査とIRの役割」同志社大学学習支援・教育開発センター第2回講演会, 2005
- (3) 大学IRコンソーシアム「「卒業生調査2020年度」基礎集計結果」, 2021
- (4) 細川敏幸, 山田邦雅, 宮本淳「学習状況調査アンケートの動向－米国と韓国の現在－」高等教育ジャーナル－高等教育と生涯学習－, 26, 2019, 59-66
- (5) 細川敏幸「高等教育研究部と大学改革の15年」高等教育ジャーナル－高等教育と生涯学習－, 29, 2022, 1-12

Alumni and Business Surveys for University Quality Assurance

※ Toshiyuki HOSOKAWA

[Key Words]

Institutional Research (IR), Alumni survey, company survey, student survey, internal quality assurance

[Abstract]

This paper first reports on the alumni survey conducted by the Institutional Research Consortium of Japanese University and the results of the FY2020 analysis. Hokkaido University conducts a survey once every three years to companies and organizations (such as local governments) that gather annually for recruiting, asking them to evaluate their graduates. Next, the contents and results of this FY2020 analysis were reported.

In the former survey, the abilities that graduates thought they should have acquired as students were “analytical and problem-solving skills,” “ability to build relationships,” “ability to work with others to get things done,” “ability to express themselves in writing,” “communication skills,” and “ability to use their time effectively.” About 40% of the respondents changed jobs, and the occupations that increased in proportion due to job change were “information and communication,” “academic research,” “education and learning support,” “medical care and welfare,” and “public service,” suggesting an increasing shift to these fields.

In the latter survey, the abilities that companies and organizations wanted students to acquire while in school were “analytical and problem-solving skills,” “ability to think critically,” “leadership skills,” “ability to build relationships,” and “ability to find and solve problems on their own.”

※ Professor Emeritus, Hokkaido University ; Former Director, The Institutional Research Consortium of Japanese University